

## シンポジウム「基礎歯科医学研究の現状と将来像」の開催について

- 1 主 催 日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会
- 2 共 催 歯科基礎医学会
- 3 日 時 平成19年8月31日(金)9:00~12:00
- 4 場 所 北海道大学クラーク会館(札幌市北区北8条西8丁目)

### 5 次 第

#### 開催趣旨

日本学術会議は我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発展を図り、行政、産業および国民生活に科学を反映浸透させることを目的として創設され、平成17年より内閣府に移管されました。日本学術会議は3部制の組織であり、第二部生命科学部門に歯学委員会が常設され、さらに基礎系歯学分科会を始め4つの分科会が設置されています。

基礎歯科医学研究に対する国民の理解は決して高いとは言えません。これは歯科医療での国民に対する貢献が高く評価されているのに対し、基礎歯科医学から国民に発信される科学的情報が、質的にも量的にも乏しいことが大きな理由の一つであると思われます。超高齢化社会である21世紀においては、歯科医療を取り巻く状況が大きく変化し、それに伴い歯科医療の科学的裏づけとなる基礎歯科学の研究が必要なことは言うまでもありません。したがって、基礎歯科医学をさらに向上、発展させ、その科学的知見を歯科医療に応用・導入するために最大限の努力を払う必要があります。また、その成果を積極的に社会に向けて情報発信し、還元することも重要です。これらを実現するための手段の一つとして学術研究団体がありますが、さらに大局的な見地から日本学術会議からの提言として基礎歯科医学研究の重要性と、そのアイデンティティーをアピールしていくことも不可欠です。

そこで本シンポジウムでは日本学術会議の概要と歯科医学の現状、さらには基礎歯科医学将来像に関して講演、討論を行うことにより、基礎歯科医学が進むべき方向を探る機会にできると確信しています。また基礎歯科医学研究がそのアイデンティティーを保つために一層の努力を必要とするとの認識を参加者が共有することで、歯科医学研究の活性化の契機にしたいと考えています。なお本シンポジウムには一般聴衆の参加も呼びかけ、基礎歯科医学の重要性を社会に発信することも目的としています。

講演者

- (1) 浅島 誠 (東京大学副学長・理事、日本学術会議副会長)  
「日本学術会議の動向と学術の推進」
- (2) 福島 雅則 (京都大学医学部附属病院探索医療センター検証部、教授)  
「新しい治療法の開発はどのように進めるか? -臨床試験・研究の原則と実際」
- (3) 山田 好秋 (日本歯科基礎医学会理事長)  
「基礎歯科医学会の現状と将来」
- (4) 米田 俊之 (大阪大学大学院歯学研究科研究科長、日本学術会議会員)  
「人材育成をどう進めるか?」

座長

- 米田 俊之 (日本学術会議会員、大阪大学大学院歯学研究科研究科長)
- 瀬戸 皖一 (日本学術会議会員、歯学委員会委員長、鶴見大学歯学部長)

6 本シンポジウムについてのお問合せ先

北海道大学大学院歯学研究科

口腔病態学講座・細胞分子薬理学室内 (担当 出山)

〒060-8586 札幌市北区北13条西7丁目

TEL 011-706-4247 Fax:011-706-4246

E-mail: [pharmacology@den.hokudai.ac](mailto:pharmacology@den.hokudai.ac)

なお、事前の参加申し込みの必要ありません。